

(1 開会)

事務局

午後1時30分、開会を宣言した。(委員14名のうち11名の参加があった。)

(2 あいさつ)

委員長

松本市社会福祉審議会条例第6条に基づき会長が議長となり、あいさつをした。大下京子様は昨年11月24日に急逝された。大下様は、当事者の考えを伝えたいと活動していた方です。ご冥福をお祈りします。

(3 会議事項)

委員長

議事(1)第7期松本市障がい福祉計画・第3期松本市障がい児福祉計画について説明を求めた。

事務局

高羽補佐から資料に基づき、第7期松本市障がい福祉計画・第3期松本市障がい児福祉計画について説明をした。

議長

意見、質問等がないことを確認し、引き続き、会議事項(2)事例検討についての説明を求めた。

岩田委員から

26Pの居宅介護の数が減少しているのはなぜか。介護保険移行についてサービスが賄えない場合は、障がい福祉サービスの併給について個別に相談し、サービスの量が落ちないようにしてほしい。障がい福祉サービスでは、週に4回ヘルパーを利用していたが、介護保険サービスでは週に1回になっていたのを支援者が気がつかない場合がある。

事務局

数が減少しているのは、実績に基づいて算出しているためである。
介護保険への移行については、しっかり引継ぎを行いたい。

杉山委員から

身体障害者手帳審査会では、すみやかに認定を進めたい。
障害手帳の取得については、どういうサービスが受けられるかメリットがあるか、本人や支援者に情報提供することが必要である。
医師会から令和5年に市へ要望をした災害時医療救護所にて要援護者、医療的ケア児・者台帳を活用し訓練を全市的に行うように今後取り組んでもらいたい。

訪問介護については、報酬が下がる改正になっている。障がい者からみると、65歳になると利用負担があがるため、障がい福祉課高齢福祉課で連携をとりながら行ってほしい。

委員長

杉山委員からは、総論的な意識のご意見がでたため、基盤整備を進めて行ってほしい。

林委員

34Pの障がい児の地域社会参加・包容（インクルージョン）について、一般的な子どもの中に入っていき取り組みが必要。保育園と児童発達支援施設の両方で交流できる（通所できる）ような取り組みを検討してほしい。特に児童発達支援事業所の考え方を変える必要もある。

松本市北部エリアには事業所が少ないため、市からの働きかけが必要と思われる。保育園に併設も検討してみてはどうか。

事務局

事業所の考え方については、事業所連絡会を通じて検討していきたい。保育園に併設については、他の自治体の状況や課題を研究していきたい。

片桐委員

養護学校からの移動に課題がある。移動の距離の問題があり、1回の送迎では3人の乗車で対応が限られてしまう。

北沢委員

21P一般就労への移行にてア（ア）b労働者不足が背景にあるのか。障がい者の方は、一般就労ができない人が多いと思われる。一般就労の実績をあげることは、そう簡単なことではなく驚きが大きい。

杉山委員

難病患者友の会では、若くして難病になった方の就労について医療を受けながら、就労をする方もいる。

委員長

社会の中の受け入れの意識も課題がある。

白井委員

令和5年の実績について、計画相談支援専門員の数の見込みについて、増えない現状がある。サービス利用の数量を上げてプランナーがない。松本市だけの課題ではない。今後は、人材育成も含めて相談をしていきたい。

西村委員

不足しているサービスと乱立しているサービスがある。サービスの質の課題もある。また、児童から成人になる18歳のサービスの移行についても、人によってしかかわりできない児童が増加している。行動障がいになっていく可能性がある。一人で過ごせないことは課題である。また、生活介護事業所が少ない。事業所指定をするなかみが問われる。

杉山委員

育成医療、更正医療の認定時もしっかり精査している。

事務局

これから、計画が始まるため、やりながら検討していく。

委員長 2つ目の協議事項「社会福祉施設等施設整備の基本方針について」説明を求めた。

事務局 高羽補佐から「社会福祉施設等施設整備の基本方針について」説明をした。

委員長 3つ目の協議事項「日中サービス支援型共同生活援助事業所における評価について」説明を求めた。

事務局 栗田係長から「日中サービス支援型共同生活援助事業所における評価について」説明をした。初めてのため、事務局にて評価をした。中身と質についての課題はあった。

東條委員 退去理由が本人理由になっているが、事業所としてそれが理由であるかを振り返ることも必要である。

香西委員 支援の質という点で、どのような方が支援しているのか（どのような経験をしてきたか）日々の研修が必要である。

山崎委員 事業所指定をした後のチェック機能が課題である。24時間のケアが可能であったため、入居者が多かったのか。

林委員 日中サービス支援型の事業所ができたことは、評価できる。事業所が増加していくのはよいため、他の事業所とも連携していき質の高い施設になってほしい。

片桐委員 評価報告者の職種は必要である。また、課題としていることを記載してもらおうとよい。利用者の思いも記載してもらおうとよい。

委員長 課題については優先順位をつけて行っていけるとよい。報告・評価シートの問題なしの項目については、改善を要するに変えた表現がよいか。

評価について、課題や13項目の他に項目があれば、メール等で事務局に連絡をしてほしい。

（4 その他）

事務局 今年度末をもって委員の皆様の任期が終了する。多大なるご協力を賜り心よりお礼申しあげます。

（5 閉会）

事務局 閉会を宣言し、午後3時30分散会した。